

## 初の国際学会への参加

創薬科学研究科 基盤創薬学専攻創薬生物化学講座 細胞生化学分野  
博士前期課程 2年生 手島裕文

場所：アメリカ・ニューハンプシャー州・Waterville Valley

期間：8月10日～18日

目的：国際学会での発表を経験すること

国際学会への参加は初めてのことであった。英語での発表経験もない私は、大きな不安を抱えて渡航した。合宿形式で行われるゴードン国際会議では、約1週間学会会場に泊まり込み、講演聴講とポスター発表を繰り返す。レベルの高い学会の一つであり、世界中の著名な研究者や重鎮が集まる。腹を決めて挑んだはずが、最初の食事で見渡す限りの外国人研究者に圧倒されてしまった。あと5日間乗り切ることができるのだろうか。明日からはポスター発表もある。早すぎた、帰国したいと思った。自由な参加スタイルである本学会ではどこか目立たない場所において、ポスターの貼り逃げなんてこともできたかもしれない。ただ、「旅の恥は掻き捨て」といった言葉もあるように、積極的に行動して失敗したら次に活かそうと決めた。

次の日からは勇気を出して人に声をかけた。下手な英語でしゃべりかけ、とにかく自分のポスターに呼び、相手の質問に一生懸命答えた。学会が終わる日までそれを続けた。その甲斐あって、著名な方にアドバイスをいただけたのはもちろん、実験プロトコルの共有、コラボレートの提案、実験ツールを進呈する約束をしていただいたりと、たくさんの成果があった。

今回の学会を振り返れば反省点ばかりである。しかしそこでの経験は本当に貴重なものであった。今回たくさんの方にお世話になったが、自身の研究を進めてまた披露したい。



学会会場の看板



最終日のディナー